

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2021年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築の歴史を学ぶという事は、先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認であり、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えである。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせること。また建築士試験レベルの問題に取組み、その対策とすることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	西洋建築史	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方
第2・3回	〈1 古代〉	古代オリエント エジプト ギリシャ ローマ建築
第4・5回	〈2 中世〉	ビザンツ建築 ロマネスク建築 ゴシック建築
第6・7回	〈3 近世〉	ルネサンス建築 バロック建築 新古典主義建築 歴史主義建築
	日本建築史	
第8・9回	〈1 古代〉	縄文・弥生・古墳時代の住居・集落 飛鳥・白鳳・奈良時代の寺院 平安時代の密教・浄土教寺院 古代・奈良・平安時代の神社 寝殿造
第10・11回	〈2 中世〉	大仏様 禅宗様 親和様 折衷様 中世の神社 北山・東山文化 中世の民家
第12・13回	〈3 近世〉	城郭建築 書院造 茶室 数寄屋風書院 近世の寺院・神社・民家 学校・大店・劇場・遊郭
	近代建築史	
第14・15回	〈1 西洋〉	産業革命 アーツアンドクラフツ運動 アールヌーボー セツェッション デ・ステイル アールデコ ハウハウス フランク・ロイド・ライト ル・コルビュジエ ミース・ファン・デル・ローエ
第16・17回	〈2 日本〉	洋風建築 西洋建築技術 擬洋風建築 耐震理論と新構法 日本の表現主義 震災前後と帝冠洋式
第18・19回	〈3 戦後〉	戦後の建築潮流 戦後の日本建築 ポストモダン

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	構造力学	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位（72時間）	開講・履修期	2021年度・2年（通年）	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	重力や地震・台風などから人間が暮らす空間を守るためには、建物の力学的な安定が必要となります。本授業では、初歩的な構造物を対象に力のつり合いについて学び、建物の骨組みのどこにどのような力が作用しているかの解法を身につけます。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要及び例題の解説を行い、演習を繰り返し実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	構造力学概論	建築物の支点・節点および荷重のモデル化、構造物の分類
第3回	力とモーメント	力・モーメント・偶力
第4回		
第5回	力の合成と分解	合成・分解の計算方法
第6回		
第7回	力のつり合い	つり合い式
第8回		
第9回	反力	反力の算定（梁）
第10回		
第11回		反力の算定（ラーメン）
第12回		
第13回		反力の算定（3ヒンジ系ラーメン）
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回	応力	応力の算定（片持ち梁）
第24回		
第25回		応力の算定（単純梁）
第26回		
第27回		応力の算定（ラーメン）
第28回		
第29回	トラス	トラス
第30回		
第31回		
第32回		
第33回		
第34回		
第35回		
第36回		
第37回		
第38回		

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	環境工学	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2021年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	快適な空間を理解し、自らそれを作り出すために、建築が人間に与える環境（熱・空気・光・音など）について工学的な基礎知識を学ぶ。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	波の性質1	波の性質、波としての音、波としての光
第3回	熱の性質2	熱とは、熱の伝わり方
第4回	太陽と地球1	太陽位置、地球の公転・自転、日照と日影
第5回	太陽と地球2	太陽からの放射と地球放射
第6回	太陽と地球3	地球の大気と気象
第7回	光1	光の知覚と物理量
第8回	光2	明るさと快適性①快適な視環境、視環境に影響する諸現象
第9回	光3	明るさと快適性②光源の種類と特徴、電灯照明、昼光照明
第10回	光4	色彩設計 ～色の名前、色彩心理
第11回	熱1	人体の熱収支、温熱快適要素、温熱快適指標
第12回	熱2	室内環境における熱収支、断熱、蓄熱
第13回	熱3	湿気、結露、対策
第14回	熱4	室内空気汚染、換気(目的、必要換気量、原理、種類)
第15回	音1	音の強さ(物理量、知覚、伝搬)
第16回	音2	音の計画(音の評価、環境振動・固体音、響き・知覚)
第17回	地球環境	温暖化、ヒートアイランド
第18回	学習のまとめ、復習	まとめ及び復習など

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2021年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	石井 準司(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「建築計画Ⅰ」は、初めて建築計画を学ぶものにとって、最も身近な生活の器である住宅について、その計画の方法を理解し、快適な住空間を創造する計画技術を学ぶ。また環境デザインのための基礎知識である太陽や風などパッシブデザインを行う上で必要な基礎知識の理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや資料などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 寸法のシステム	①寸法の単位とヒューマンスケール
第2回		②寸法のシステム:モジュール、日本の木割り
第3回		③三角スケールの使い方
第4回	2. インテリア空間	①インテリア空間と人間工学
第5回	3. 住宅計画とは何か	: 人体とスケール
第6回	4. 寸法のシステムと規模の計画	: 人体寸法から動作空間 : 動作空間から単位空間
第7回	5. 住空間の構成原理	①住宅計画の歩み
第8回		②歴史の中の住宅建築
第9回		③住宅平面の考え方 : ゾーンプランニング : 動線によるプランニング
第10回	6. 作品研究	
第11回	7. 建築の基本的な構成の手法について	①建築の構成の基本要素: 建築の各部位がどのようにとらえられてきたか。 : 建築を成立させる基本的アイテム : 比例(プロポーション)など : スケールの問題など
第12回		②建築の基本的空間言語について
第13回		①パッシブデザインを行うための原理の解説
第14回	8. 空気の流れ	②実例による解説
第15回	9. 太陽の動き	
第16回	10. 結露の仕組み	
第17回	11. 都市計画	①実例による解説
第18回		
第19回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 年間計21週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2021年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	長嶋 高志（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	各施設計画における用語や基本的な考え方を理解する。そのうえで、実際の建築事例に対する計画学的読解力を高める。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要の解説を行い、演習を適宜実施する。2級建築士資格試験にも対応できるような内容・水準をベースとする。また、平面図を中心に多くの建築事例の図面を用いて、それらの計画学的な意図・手法について読み解いていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回		連続住宅
第3回		アクセス形式・住戸断面形式の分類
第4回		グループ居住(コーポラティブハウス、コレクティブハウス)
第5回	2. 幼稚園・学校	保育室の計画
第6回		学校運営方式
第7回		平面計画
第8回	3. オフィス	レントابل比
第9回		コアタイプ
第10回		デスクレイアウト
第11回	4. 図書館	図書館の役割
第12回		出納方式
第13回		平面計画
第14回	5. 美術館・博物館	部門構成
第15回		平面計画
第16回		展示室の採光・照明
第17回	6. 資格試験対策	二級建築士試験対策①
第18回		二級建築士試験対策②
第19回		二級建築士試験対策③

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅰ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2021年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	長嶋 高志（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築物の構造の大部分をしめる木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造の内、木構造と鉄筋コンクリート構造について学ぶ。また、1・2級建築士の試験科目である建築構造の問題は、まさにこの科目で学ぶ内容に該当するものである。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建築構法の概要	建築構法の変遷 建築構造の分類 構法エレメント
第2回	2. 木質構法	木質構法の特徴
第3回		・木質構法の特徴
第4回		・設計図書
第5回		木材
第6回		・建築用木材 木質材料
第7回		軸組構法の構成
第8回		・基礎 軸組
第9回		・小屋組
第10回		・壁 床組
第11回		・内外装
第12回		・開口部 建具
第13回		・階段 接合
第14回		枠組壁工法
第15回		大断面集成材構法
第16回	3. 鉄筋コンクリート構造 (RC造)	鉄筋コンクリート構造の特徴
第17回		・構造形式と構造の原理
第18回		・設計図書
第19回		材料
第20～21回		・コンクリート
第22回		・鉄筋 配筋
第23回		ラーメン構造
第24～25回		・ラーメン構造の構成
第26回		・基礎
第27～28回		・柱
第29回		・梁
第30回		・スラブ
第31回		・壁
第32回		・内外装
第33回		・階段
第34回		・型枠
第35回		その他の工法
第36回		・壁式構造
第37回		・プレキャスト構造
第38回		・鉄骨鉄筋コンクリート構造

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅱ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2021年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	長嶋 高志（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築構造のうち、鉄骨構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。授業の後半には、二級建築士の資格取得を目的とした授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	・授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回 第3回	2. 材料	・鋼材① 鋼材の形状、柱・梁の種類 ・鋼材② 鋼材の種類
第4回 第5回 第6回 第7回	3. 軸組工法	・接合方法① 接合方法の種類 ・接合方法② 高力ボルト接合 ・接合方法③ 溶接接合(方法、種類、形状) ・接合方法④ 溶接接合(工場、現場)
第8回 第9回 第10回 第11回 第12回	4. 架構	・架構の構成 ・基礎・柱脚 ・柱・梁(継手・仕口、ブレース) ・床(デッキプレート、パネル、階段) ・詳細(耐火被覆、開口部)
第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回	5. 資格試験対策	二級建築士試験対策① 二級建築士試験対策② 二級建築士試験対策③ 二級建築士試験対策④ 二級建築士試験対策⑤ 二級建築士試験対策⑥ 二級建築士試験対策⑦

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2021年度・2年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	篠原 範之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	将来インテリア・建築に関連する業務において、知っておくべき最低限の現場実践的な知識の理解を目指す。 建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。 又、2級建築士試験対策としての知識の修得も目標とする。 その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	契約・計画・管理 契約・仕様書 施工計画	ガイダンス 教材の説明と授業の進め方 工事計画 施工計画 工程計画
第2回	施工管理 工事準備	現場 安全 材料 品質管理 申請・届出・手続き 各調査
第3回	各部工事 仮設工事	仮設工事の要点 種類 仮囲い 足場 棧橋 架設通路 安全施設
第4回	土工事 地業工事 基礎工事	地盤調査 土工事 地業工事 杭工事
第5回	鉄筋工事	鉄筋の種類 鉄筋の加工・組立 定着 継手
第6回	型枠工事	型枠の材料 加工・組立 解体 特殊工法
第7回	コンクリート工事	コンクリートの材料 用語 調合 製造 運搬・打込・養生 品質管理・試験方法等
第8回	鉄骨工事	材料 工場作業 接合 現場作業 耐火被覆
第9回	組積工事	補強コンクリートブロック工事 ALC工事 れんが工事
第10回	木工事	材料 加工 造作工事 枠組壁工法
第11回	防水工事	防水の種類 メンブレン防水工事 シーリング工事
第12回	左官工事	各種下地 塗り工事 吹付け工事
第13回	タイル工事 石工事	
第14回	塗装工事 建具工事 ガラス工事	種類と特性 素地ごしらえ 工法
第15回	内装工事 断熱工事	
第16回	設備工事	給排水衛生 建築と設備の関連
第17回	各種工事 施工用語 施工機械器具	屋根工事 金属工事 揚重・運搬用機械 土工事用機械 各種工事用機械 工法と工事等の関係
第18回	その他 積算 測量	工事費の構成 積算用語 積算の基本事項 各種工事の歩掛り・割増率 縄張り・やりかた 各種測量

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位（72時間）	開講・履修期	2021年度・1年（通年）	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（実務経験を持つ二級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみをもち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で基本概要及び例題の解説を行い、そのうえで演習を実施する。将来の建築士試験に向けた下地づくりができるよう、テキストのほかに法令集を使用し、演習においては実際の建築士試験問題を取り入れる。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回		法令集の使い方、法令用語の読み方
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回	高さ制限	絶対高さ制限、道路高さ制限、隣地高さ制限、北側高さ制限
第16回	確認申請・手続	確認申請、完了検査、中間検査
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回	採光	採光有効面積
第24回		
第25回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第26回		
第27回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第32回		
第33回	防火区画	縦穴区画、異種用途区画、防火壁、界壁・間仕切壁
第34回		
第35回	内装制限	内装制限を受ける建築物
第36回		
第37回	避難施設	廊下の幅、出入口、直通階段、避難階段、手すり、排煙設備、非常用の照明設備
第38回		

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2021年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	大和 賢次（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築計画に必要な環境及び建築基準法・消防法・ビル管理法・建築確認申請等の解説。 自分で設計した建物に給排水・換気・照明器具等設備設計図の作成を行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建築設備	建築設備に関する概要
第2回～ 第4回	2. 給水設備	給水方式、給水使用量、用語の解説、給排水設備機器、使用量等の調査
第5回～ 第6回	3. 換気設備	換気方式、建築基準法に適合する計算式等の基本を学ぶ
第7回～ 第9回	4. 空調設備	冷暖房方式、冷暖房負荷、結露の原因等の概要 冷暖房設備の負荷計算書の作成
第10回～ 第12回	5. 電気設備	電気幹線・照明・テレビ・インターホン・電話等に関する概要 照明の照度計算
第13回～ 第14回	6. 熱源機器	化石エネルギー・自然エネルギー等の概要
第15回	7. 防災設備	消火設備・火災報知設備・消防法等に関する基本
第16回～ 第17回	8. 建築設備図面	簡単な建築設備図の作成 (各自のパソコンで作成)
第18回	9. 資格試験問題	練習問題・解説

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ（木造）	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位（144時間）	開講・履修期	2021年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「建築製図Ⅰ」では、各種構造の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドや資料などの教材を利用した講義形式の授業も行う。作業は基本的には個人で行うが、軸組模型についてはグループワークによるものである。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目橋・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回	2. 木造製図	図面の名称・内容・図面の読み方・図面を描く上での注意点
第3回		案内図・求積図・一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第4回		配置図講義
第5回～		配置図作図演習①
第7回		配置図作図演習②
第8回		平面図講義
第19回～		1階平面図作図演習①
第13回		1階平面図作図演習②
第14回～		2階平面図作図演習①
第17回		2階平面図作図演習②
第18回		平面詳細図講義
第19回～		1階平面図作図演習①
第22回		1階平面図作図演習②
第23回～		2階平面図作図演習①
第27回		2階平面図作図演習②
第28回		軸組模型講義
第29回～		軸組模型製作演習①
第36回		軸組模型製作演習②
第37回		立面図講義
第38回～		立面図作図演習①
第43回		立面図作図演習②
第44回		断面図講義
第45回～		断面図作図演習①
第48回		断面図作図演習②
第49回		矩計図講義
第50回～		矩計図作図演習①
第54回		矩計図作図演習②
第55回		基礎伏図講義
第56回～		基礎伏図作図演習①
第58回		基礎伏図作図演習②
第59回		1階床伏図講義
第60回～		1階床伏図作図演習①
第63回		1階床伏図作図演習②
第64回		2階床伏図講義
第65回～		2階床伏図作図演習①
第67回		2階床伏図作図演習②
第68回		2階小屋伏図講義
第69回～		2階小屋伏図作図演習①
第71回		2階小屋伏図作図演習②
第72回		展開図講義
第73回～		展開図作図演習①
第76回		展開図作図演習②

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ（RC造）	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位（72時間）	開講・履修期	2021年度・2年（後期）	講義区分	専門実技
教員紹介	篠原 範之（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	鉄筋コンクリート構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実務的な図面の紹介・説明も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	鉄筋コンクリート造	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
	設計製図課題	
第3回		配置図・1階平面図講義
第4回～		配置図兼1階平面図作図演習①
第12回		配置図兼1階平面図作図演習②
第13回		基準階・屋上階平面図講義
第14回～		基準階平面図作図演習①
第20回		基準階平面図作図演習②
第21回～		屋上階平面図作図演習①
第24回		屋上階平面図作図演習②
第25回		断面図講義
第26回～		断面図作図演習①
第30回		断面図作図演習②
第31回		立面図講義
第32回～		立面図作図演習①
第33回		立面図作図演習②
第34回		矩計図講義
第35回～		矩計図作図演習①
第36回		

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	パース演習	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(36時間)	開講・履修期	2021年度:1年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	IC2次製図試験や商業施設士試験を念頭に置いた手書きの作図演習を実施する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	1限の演習の中で、1つか2つの手書きパースの課題を即日で仕上げていく。前半は解説を聞きながらトレースをしていく授業だが、2回の授業内テストを実施し、自分で描く実践力をつけていく。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 ～第5回 第6回	演習1 演習2	基礎図法(1点透視図) パース概論
第7回	演習3	
第8回	演習4	
第9回	演習5	
第10回	演習6	
第11回	演習6.5	小テスト-1
第12回	演習7	グリット法
第13回	演習8	
第14回	演習9	外観-1
第15回	演習10	外観-2 小テスト-2
第16回	演習11	実践演習
第17回	演習12	実践演習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅰ（住宅）	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位（108時間）	開講・履修期	2021年度：1年（通年）	講義区分	専門実技
教員紹介	前期：石井準司／後期：木村直樹（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「設計演習Ⅰ」では、1年間を通し、戸建住宅を題材に、建築計画学に基づいた住宅の設計手法の実践とプレゼンテーション図作成の技術を学ぶ。また、自分の考え・提案を他の人の前で発表し、納得してもらおうといったプレゼンテーションを積極的に授業に取り入れ、自身の考え・提案の更なる進展を図ることを目標とする。夏休み以降はCADによる図面作成を行い、社会的ニーズに応じた幅広い表現方法を学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全て個人によるものであり、コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第5回～ 第9回～ ～第19回	1. 「9坪ハウス」住宅模写 2. 「9坪ハウス」模型製作 3. 木造戸建住宅	①図面の概念の学習：配置図兼平面図の模写 ②図面の表現の仕方の学習：線の使い分けを学ぶ ■模写図面提出 ①エスキースの学習：フリーハンドによる作業の練習 ：建築計画Ⅰで学ぶゾーニング、動線プランニング等の応用 ②配置図兼平面図の作成：製図用具を使用した手書きの図面の作成 ③模型制作による空間の学習：スチレンペーパーによる模型制作により空間を把握する ■作成図面及び模型提出 ①類似例の収集と分析。方針の模索 ②エスキースから図面作成、模型制作、プレゼンテーションまでの一連の過程を学習する ③エスキース及びエスキース模型による図面チェック ④SketchUpによるプレゼンテーション用図面作成 ■CAD出力図・内外パース・データ及び模型提出 プレゼンテーション
第20回～ ～第54回	4. 2世帯住宅（仮） 都市型住宅	後期 現地調査一計画地と周辺地域（レポート） ①類似例の収集と分析。方針の模索 ②テーマの決定（設計条件の決定） ③エスキース作業とエスキース模型による検討 ④構造形式の検討・チェック ⑤コンピュータCAD（ベクターワークス・SketchUp）によるプレゼンテーション用図面作成 基本図＋内外パース ⑥完成模型の制作 ■中間発表 ■CAD出力図シート・データ及び模型提出 プレゼンテーション

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	設計演習Ⅱ（商業施設）	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位（76時間）	開講・履修期	2021年度：2年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	安田 泰三（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	計画地及び既存施設の視察を通し、建物と近隣地域の関係を体験。具体的なクライアントを設定しプログラムの検討を行い、設計に反映。リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したプロジェクトフローに基づき商業施設の建築計画を理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外リサーチも行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、テーマ・コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第5回	1. リサーチ・講義	「表参道に建つ商業施設 新店舗の企画から設計まで」 ①スケジュール・課題内容説明、リサーチ開始 ・街や敷地周辺状況を把握、既存施設の見学を行う ②スタディの進め方レクチャー、計画の規模を把握 ・RC造もしくはS造 3階建：延床面積800m ² （容積率上限）マデ ・敷地模型（S=1/200）製作を制作し、現況レベル差、周辺建物の位置関係を把握 ■リサーチレポート提出
第6回～ 第10回	2. 設計条件の設定	①計画敷地分析・条件分析・方向性の検討 ・既存店舗の問題点を抽出、現代の消費性向に合わせた商業施設を企画する ・不特定多数・多世代が集う施設として必要なものは何かを考える（バリアフリー等） ②施設ボリューム・機能・ゾーニング・動線（客・業務）の検討 ・RC造/S造の構造レクチャー（図面表現密度を上げる）、法規チェック ■企画発表会・企画書提出
第11回～ 第20回	3. 計画・設計	①導き出した設計条件（企画の方向性と施設ボリューム）から細部の検討へ ・動線とコア位置、細部の寸法、構造形式と基本スパンを決定 ②建物配置、各階平面図、立面図・断面図を計画する ・3Dソフトも併用しながら、インテリアと外観を検討 ③インテリア計画、検討用模型製作 ・インテリア（具体的な素材、スタイル）の検討、最終模型前の表現方向を確認 ■エスキス（図面・部分模型）提出
第21回～ 第36回	4. 視覚化	①設計主旨 ・企画書で導き出した設計主旨をダイアグラムとして整理 ②建築概要 ・法的要件の確認：建築面積/建蔽率、各階・延床面積/容積率、最高高さ等の明示 ③配置・各階平面図・立面図×2面・断面図×2面、模型、製作開始 ・2D図面表現とする ④内観・外観パース（手書き・CG・模型写真等） ■最終成果物提出
第37回～ 第38回	5. プレゼンテーション	①最終成果物をもとに、発表を行う ・他の発表者の成果も見ることで、自らの思考・デザイン表現の振り返り ・後期の卒業制作や他課目へのステップとして、デザイン力のさらなる向上へつなげる

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週、後期21週 年間計42週

製図専門課程（工業）

科目名	インテリアコーディネート	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(108時間)	開講・履修期	2021年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。) 石橋弘次(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	インテリアのコーディネート の提案について理解を深め、実務における実践的提案力をつける。前期では、マンションのコーディネートを通して素材や家具などの理解を深め、コーディネートの流れをロールプレイする。後期では、いくつかのフリーソフトウェアを使い、より高次のプレゼンテーションを目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、インテリア系ショールームの見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回 第3回～	概要 第1課題【IC練習問題】 講義・演習	[インテリアコーディネーションとは]：インテリアとは、コーディネーターの仕事 [スタイルとイメージ]：言葉とイメージ、インテリアの構成要素 第1課題 概要説明 [住空間の要素①「私室」]：くつろぐ、楽しむ、寝る、作業する [家具①]：家具の種類、名作椅子 [素材①床]：タイル、フローリング、カーペット、畳、ビニル床、石、ラグ [家具②]机、食卓、デスク、シェルフ [寸法]：寸法感覚をつかむ、基本寸法
第6回～	第2課題 【マンションワンルームIC】 講義・演習	第1課題 提出 第2課題 概要説明 [住空間の要素②「リビング・ダイニング・キッチン」]：くつろぐ、楽しむ、作る、食べる [材料②壁・天井]：漆喰、珪藻土、塗装、木、クロス（織布、紙、和紙、ビニル）金属等 [ウィンドウトリートメント]：窓のタイプ、ウィンドウトリートメントの種類 [色]色の構成、バランス [光]：照明器具の種類 コーディネーションにおけるプレゼンシート表現方法、レイアウト [給排水設備]：水栓、金具、洗面器等 [高さ]：天井高さ、プロポーション、空間の空き、段差の活用 [建具]：扉の種類、金具、材質 [材料③透明材]：ガラス、アクリル、ポリカーボネード、ガラスブロック
第18回	第3課題 【マンションワンルームIC】 演習	第2課題 提出 前期ワンルーム課題の照明計画 1. 居住空間の照明計画__照明計画図の制作・提出 2. 器具選定と照度計画・照明空間イメージの制作／DIALux によるレンダリング表現 3. 講評・提出
第19回～ 第23回～	【様式史・アンティーク知識】 講義・授業内テスト	ヨーロッパの家具史—古代から近世まで
第30回～	第4課題 【古民家リノベーション】 講義・演習 講義・演習 講義・演習	和のしつらえ「土蔵の舎」 情報整理・方針決定・エスキース（平面・断面・立面図）提出 SketchUpによる3D基礎表現—基本ツールの再確認 SketchUpによる3D応用表現—平面図・断面展開図・透視図への展開
第50回～ 第54回	演習 講義・演習	講評・提出 Twinmotionによるレンダリング表現

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリアデザイン	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位（72時間）	開講・履修期	2021年度：2年（前期）	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹（自らのデザイン事務所を18年主宰し、インテリア実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	商業施設及び店舗の実地調査し、「商い」の本質をインテリアデザインの立場より見抜く目を養う。商業施設とは「安心して買い物や飲食ができる空間を創ること」を基に、専門的な知識の学習、設計基本を学び、知恵へと膨らませる。その集大成として、自身で企画した店舗を実地区画にデザイン・設計。模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や専門機関ショールームの見学など、実地レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドや実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。立地調査からコンセプト・デザイン・設計を商いのカタチにまで造り上げることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	インテリアデザインとは 商業施設・店舗の実例をもとに、実践したプレゼンテーションの実演から学ぶ
第2回	2. 課題現地調査	商業施設及び店舗、課題地調査
第3回～	3. 課題現地調査書作成① 4. 課題現地調査書作成②	現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書（プレゼン資料）を作成① 現地調査に基づき、グループ単位での現地調査書（プレゼン資料）を作成②
第11回～	5. 調査書プレゼンテーション	現地調査書、プレゼンテーション（各グループ単位）、グループ別講評
第13回	6. 店舗企画案	店舗企画案：業種・業態・ターゲット・販売方法
第14回	7. インテリア設計概論	実地店舗においての、コンセプト作り、平面ゾーニング、平面計画等の手法を学ぶ
第15回	8. インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関（ショールーム）にて素材研究/体験授業研修
第16回～	9. 平面ゾーニング・計画① 10. 平面ゾーニング・計画②	店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成① 店舗設計、コンセプト・平面ゾーニング・計画図作成②
第20回～	11. 設計図書製作① 12. 設計図書製作② 13. 設計図書製作③	店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成① 店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成② 店舗設計、平面図・立面図・展開図・パース等、設計図書作成③
第28回～	14. インテリア模型製作① 15. インテリア模型製作② 16. インテリア模型製作③	インテリア、模型製作① インテリア、模型製作② インテリア、模型製作③ / 最終プレゼンテーションシート作成
第34回～	17. 最終プレゼンテーション① 18. 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②
第36回	19. 最終講評会	各作品全体講評会、インテリア設計のまとめ

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	家具デザイン	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(72時間)	開講・履修期	2021年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉竹 徹(自らのデザイン事務所を18年主宰し、インテリア実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	日々の暮らしや仕事、交流や休息の場面を支えている家具。家具の3要素である「強(堅牢・丈夫)/用(機能・使いやすさ)/美(美しさ・快適さ)」を基軸に、課題に取り組むプロセスのなかで、発想力を磨き上げることを学びます。その集大成として、自身でデザインした家具の企画書・設計図・3D・模型を製作し、最終プレゼンテーションを行う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、実物調査や専門機関の見学など、原寸レベルでの体験授業なども適宜取り入れる。また、スライドを用い、実現場で行われている内容を講義形式で行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。調査と体験からコンセプト・デザイン・設計を家具のカタチにまで造り上げ、プレゼンテーションすることにより、最終では期限内に作品を完成させることを最優先として、スケジュール管理も個々行う。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回～	1. ガイダンス /講義	家具デザインとは(概論) 家具の実例をもとに、「強・用・美」から学ぶ家具の基礎概論 ※基礎概論～強度・人間工学と用・美しいということ・スタイルの調和
第4回 第5回～	2. 実物(体験)調査 /プレゼンテーション	「名作家具から学ぶ」モダン家具のデザインを実体験 ※プレゼンテーション形式による、レポート作成
第11回～ 第15回	3. 課題演習Ⅰ /講義	「家具デザイン課題演習Ⅰ」 制作フロー～発想原点・テーマと造形・モックアップ制作・作図・プレゼンテーション
第16回	A インテリア専門機関研修	インテリア関連専門機関(ショールーム)にて素材研究/体験授業研修
第17回～ 第20回～ 第23回～	4. 課題演習Ⅱ 5. 家具企画案 6. 設計図書製作① 設計図書製作② 設計図書制作③	「家具デザイン課題演習Ⅱ」 ラフスケッチによる、アイディア出し、コンセプト作成 コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成① コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成② コンセプト・家具三面図・3D等、プレゼンボード作成③
第27回～	7. /中間プレゼンテーション	中間プレゼンテーション、中間講評会
第29回～	8. 家具模型製作① 家具模型製作②	家具、模型製作① 家具、模型製作②
第33回～	9. 最終プレゼンテーション① 最終プレゼンテーション②	プレゼンテーション、個別作品講評会① プレゼンテーション、個別作品講評会②
第36回	10. 最終講評会	各作品全体講評会、家具デザインのまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期19週、後期19週 年間計38週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルプレゼンテーション	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(36時間)	開講・履修期	2021年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	石原 将也（実務経験を持つ商業施設士であり、店舗設計経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「illustrator」「photoshop」を主としたデジタルツールの操作習得を通し、自身が計画した提案を、他者への的確に伝えるプレゼンテーション能力を身に着けることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、実務において汎用性の高い「illustrator」「photoshop」の操作習得、効果的な提案資料作成の基盤を作る。また、今までに習得したデジタルツールを横断的に活用し、ポートフォリオの作成を通じてプレゼンテーションスキルの向上を図る。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 目標と準備	・ソフトウェアインストール、目標・スケジュール説明
第2回 第3回	2. プレゼンテーションの基礎	・提案与件の整理について ・ビジュアルプレゼンテーションについて
第4回 第5回	3. Photoshopの基礎	・ラスターデータとベクターデータ ・ピクセル・解像度について ・レイヤー・マスクについて ・画像の切り抜き
第6回 第7回	4. Photoshopの応用(1)	・背景、添景、人の合成 ・写真補正(レベル補正 アンシャープ機能 陰影付けと修正)
第8回 第9回	6. Photoshopの応用(2)	・CG用テクスチャーの作成 ・手描き風写真加工
第10回 第11回 第12回	7. illustratorの基礎	・[線]：ペンツール、ペジェ曲線、アンカーポイント、パス、ブラシ ・[面]：面作成、レイヤー前後関係、加工、パスファインダー ・[カラー]：カラー設定、スウォッチ登録、グラデーション ・トレースチャレンジ・ライブペイント ・[文字]：文字設定、段落設定、文字のレイアウト、フリーフォントの活用 ・[画像配置]：解像度おさらい、画像のリンク、埋め込み、ライブトレース、ラスターライズ
第13回	8. illustratorの応用(1)	[イラストレーターで図面着色]：VectorからIllustrator、図面の着色、ドロップシャドウ
第14回	9. illustratorの応用(2)	・レイアウトのルール・手順 ・レイアウト実習 ページレイアウト想定
第15回 ～19回	10. プレゼンテーションの実践	・プレゼン資料の考え方 ・資料のデザインの考え方(トーン&マナー) ・ポートフォリオの作成

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図 I	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(108時間)	開講・履修期	2021年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石橋 弘次（一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	CADの概念を理解し、正しい表現としての適切な作図が行える力を習得する事を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、Vectorworksをベースに、環境設定から面と線、幾何学図形の作図を通し、基本操作を習得。またレイヤークラス分けなどの管理を理解し、適切に運用していく方法を学ぶ。また、CADの操作に留まらず、図面の作図、図面の意図を理解することに重点を置き、第一段階では1/100レベルの意匠図、第二段階では各種構造の構成も踏まえた理解、1/50レベルの一部詳細を含んだ表現へと段階的に習得する。また、合わせてSketchUPの習得も行い、図面と三次元の関係性を理解する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第2回～	目標と準備 基本設定	CADの概念と実務活用、Vectorworksインストール準備 線を描く：ツール操作、クラス設定と線種、設定等 環境設定：ツール配置、作業画面登録
第3回～ 第7回～ 第9回～	作図練習 家具シンボル作成 配置兼1階平面図	幾何学図形を描く：幾何学図形の作成、加工（切り欠き、張り合わせ）、前後関係 曲線と多角形：円弧、ペジェ曲線、多角形、線分化 作図ベース定義：縮尺、用紙設定、レイヤー設定 通り芯の作図：通り芯、オフセット 壁の作図：ダブルライン多角形、切り欠き 寸法記載：設定、位置の検討 建具の作図：建具の種類、簡易的な窓や開口部の描画 階段：階段の種類と描画、計算方法 建築概要：面積の算定、記号、文字記載
第14回～	2階平面図	図面の管理：レイヤー登録画面設定 作図手順、作図実習
第18回～	立面図1面 断面図1面	立面図とは：高さの表記、屋根の種類、屋根勾配 作図方法：図面の回転、窓の表現 断面図：断面図とは、切断位置、切断表現 懐寸法：スラブ、屋根、基礎 階段の段数決定の基礎、表現
第19回～	sketchup講座	基本操作：、SketchUPインストール、図形の作図、カメラワーク、スタイルの管理 立体データの作図：2Dデータからの立体モデリング方法
第25回～	シートレイヤー	シートレイヤーの仕組み、設定
第29回～	RC造の1/100図面表現	RC造の基礎：ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握、基礎ピット、屋上の構成
第33回～	RC造の1/50図面表現	RC造の応用：仕上げ方法による壁構成の違い、LGSの構成、1/50レベルの図面表現
第37回～	木造1/50壁の構成	木造の応用：木造の壁構成
第39回～	展開図作図の基礎	展開図作図：展開図の作図手順、巾木、廻り縁
第41回～	家具図の表現	家具図の基礎：三面図の基本構成と材料、引き出しの構成
第45回～	S造の1/100図面表現	S造の基礎：ラーメン構造、基本スパン、断面構成の把握
第49回～	S造の1/50壁の構成	S造の応用：仕上げ方法による壁構成の違い
第53回 ～第54回	レンダリングソフトの活用	SketchUPデータをレンダリングソフトへコンバート、素材や照明の適用 静止画のレンダリング、映像のレンダリング

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(36時間)	開講・履修期	2021年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	吉村 とも子(CAD利用技術者1級である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	AutoCADの基本操作と応用操作を習得し、図面作成に必要な知識を身に付ける。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、汎用CADでは世界的なシェアを誇るAutoCADの習得を特徴とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
	2. インストール	AutoCADのインストールとラアクティベーションについて
	3. AutoCADとは	CADソフトの種類、AutoCADのバージョン
第2回	4. AutoCADの作成機能	「基本的な作成コマンドの操作方法を学びます」
第3回		付属CD-ROMの内容と使い方
第4回		画面構成・環境設定・機動と終了
第5回		ファイルを開く、コマンドの使い方・オブジェクトの選択
		画面の拡大表示と移動、直線の作成と削除
		新規図面作成・テンプレートと図面範囲
		座標入力
		直行モードと極トラッキング・オブジェクトスナップ
		ポリラインの作成と編集
		ファイルの保存とバックアップ
		長方形・ポリゴン
		円・円弧・楕円
第6回	7. AutoCADの修正機能	「基本的な修正コマンドの操作方法を学びます」
第7回		移動と複写
第8回		オフセット・回転、トリム・延長
		尺度変更・鏡像、フィレット・面取り
		配列複写
第10回	9. AutoCADの応用機能1	「文字や寸法の設定と入力の方法を学びます」
第11回		文字スタイルの役割
		文字記入・マルチテキスト・行間隔の設定
		寸法記入スタイルの設定
		長さ寸法・並行寸法・直列寸法・並列寸法・直径寸法・角度寸法・クイック寸法
第13回	11. AutoCADの応用機能3	「図面作成に重要な、図形を効率よく作成、修正する有効な機能とその活用方法を学びます」
		コマンドエイリアスとカスタマイズ
		オブジェクトプロパティ管理・オブジェクトスナップトラッキング、印刷方法
第14回	12. AutoCADの応用機能4	「画層/レイヤーを使った図面の作成について学びます」
		画層/レイヤー・線の種類についての設定と活用方法
		グラデーションの作成
第15回	13. 課題図の作成	問題データ(配布)を使用して、作成、修正、印刷まで行う
第16回		
第17回	14. AutoCADの実施図面	「建築図面を作成する手順を学びます」
第18回		RC造マンションの平面図を作成
第19回		各スタイルの設定とテンプレートの活用
		マルチラインの設定と作成
		基点設定・2点間中点・分解・グリップ編集
		ブロックの作成と挿入・属性の作成と編集

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD製図Ⅱ	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(36時間)	開講・履修期	2021年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	木元 洋佑（一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	Archi CADの基本技能の(モデリング+レンダリング)取得。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、近年、建設業界におけるBIMの活用が急激に進んでいる中で、今後必要とされる技術の取得、BIMについての理解を重視する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス インストール	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明 アプリケーションのインストール。無償教育版の申し込みを行う。
第2回	操作の基本1	基本的なアーキキャドの操作方法を実戦。
第3回	操作の基本2	作業画面の設定を行う。
第4回	モデリング1	ファンズワース邸を参考にモデリングを行う。
第5回		敷地の設定。フロアの設定。通り芯。柱の配置
第6回	モデリング2	スラブ、外壁、間仕切りの配置、建具の配置。
第7回		
第8回	モデリング3	階段、ゾーン、オブジェクトの配置。
第9回	レンダリング	ファンズワース邸を利用してレンダリングを行う。
第10回		
第11回	図面・レイアウト	図面のレイアウトを行う。
第12回		
第13回	ゾーンツールの活用	ゾーンツールを利用してアーキキャドによるスタディの仕方を学ぶ。
第14回		敷地の入力
第15回～ 第18回		ゾーンの作成
第19回	アーキキャドの応用	プレゼンテーションの参考事例等の説明

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	製図課題研究	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(46時間)	開講・履修期	2021年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	岡野 勇(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「製図課題研究」では、各種構造の基本や特徴を、実務的な図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、更に手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。また、スライドや資料などの教材を利用した講義形式の授業も行う。作業は基本的には個人で行うが、軸組模型についてはグループワークによるものである。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. ガイダンス 2. 木造製図	授業の目橋・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回		図面の名称・内容・図面の読み方・図面を描く上での注意点
第3回		案内図・求積図・一般事項・基本寸法・面積算出の説明
第4回		配置図作図演習①
第5回		配置図作図演習②
第6回		1階平面図作図演習①
第7回		1階平面図作図演習②
第8回		2階平面図作図演習①
第9回		2階平面図作図演習②
第10回		1階平面図作図演習①
第11回		1階平面図作図演習②
第12回		2階平面図作図演習①
第13回		2階平面図作図演習②
第14回		軸組模型製作演習①
第15回		軸組模型製作演習②
第16回		立面図作図演習①
第17回		立面図作図演習②
第18回		断面図作図演習①
第19回		断面図作図演習②
第20回		矩計図作図演習①
第21回		矩計図作図演習②
第22回		基礎伏図作図演習①
第23回		基礎伏図作図演習②
第24回		1階床伏図作図演習①
第25回		1階床伏図作図演習②
第26回		2階床伏図作図演習①
第27回		2階床伏図作図演習②
第28回		2階小屋伏図作図演習①
第29回		2階小屋伏図作図演習②
第30回		展開図作図演習①
第31回		展開図作図演習②

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	インテリア課題研究	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(46時間)	開講・履修期	2021年度：1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	石井準司(一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	インテリアのコーディネート提案について理解を深め、実務における実践的提案力をつける。前期では、パース演習と連携し、IC2次製図試験を念頭に置いた手書きの演習を実施する。後期では、いくつかのフリーソフトウェアを使い、より高次のプレゼンテーションを目指す。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、インテリア系ショールームの見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	講義	概論・インテリアコーディネーターの業務
第2回	講義・演習	インテリアスタイルとイメージの構成 インテリアコーディネートのプレゼンテーション
第3回	講義	スペースプランニングの基本 住宅の機能とスペースプランニング バリアフリーのデザイン
第4回	講義・演習	インテリア構成要素・素材
第5回	講義・演習	カラースキーム
第6回	講義・演習	インテリアイメージモデルの作成 パース演習-居間食堂、個室、外観(手書き・データ化)
第7回	講義・演習	ウインド・トリートメント・インテリアアクセサリー
第8回	講義	家具の選択とアレンジメント
第9回	演習	プレゼンテーション・提出
第10回	講義・演習	照明計画 __DIALux 演習～照度計画とレンダリングイメージの制作
第11回	講義	ヨーロッパの家具史—古代から近世まで
第12回	講義・演習	和のしつらえ
第13回	講義・演習	SketchUpによる3D表現—ICと3D CAD
第14回	講義・演習	SketchUpによる3D表現—平面図・展開図への展開
第15回	演習	プレゼンテーション・提出
第16回	講義	作品研究

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	照明デザイン	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	1単位(46時間)	開講・履修期	2021年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	田中 清隆(照明デザイナーとして長年に渡り、照明デザインの業界で活躍してきた教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	建築・インテリアスペースに欠かせないエレメントである「光(照明)」をデザイン(モデル制作・プレゼンテーション)し、アイデアからフィニッシュまで、トータルに作業を行うことで、「光と形」、「光とソライ」＝光の効果を体験・体感することを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、必要に応じて「光」や「照明」の基本的な理論についての講義も行う。また、参考作品などについては、プロジェクターを使用してビジュアルな情報として与える。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 光について	①光について:作業工程についてのオリエンテーション ②課題を発表、説明後アイデアスケッチ ③照明調査及びレポート
第2回～ 第5回		
第6回～ 第10回	2. アイディアから スタディモデル	①アイデアスケッチよりデザイン候補を数点選択し、ケント紙、スチレンボード他にてスタディモデルを制作し、おおまかに最終デザインを決めて行く。
第11回～ 第16回	3. 原寸大モデル制作	①最終デザインのサイズを検討→決定 ②素材の検討 →決定 ③光源(ランプ等)の検討 →決定 ④①～③よりモデル実制作(材料、ランプ等購入→加工→組み立て→仕上げ)
第17回～ 第23回		
第24回～ 第27回	4. モデル講評	①完成モデルの講評会(未完成・不完全なものは手直しを命じる) ②モデルの写真撮影(各自)
第28回～ 第32回	5. プレゼン作業	①プレゼン作業(A3サイズ3枚に図面、写真、デザイン説明等レイアウト)
第33回	6. プレゼン講評	②プレゼン講評会(課題提出日)
第34回	7. 課題総評	③総評(課題返却→各自に解説→手直し)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	インテリア資格講座	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位（138時間）	開講・履修期	2021年度・2年（通年）	講義区分	専門理論
教員紹介	長嶋 高志（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	インテリア産業協会が実施している「インテリアコーディネーター資格試験」の合格を目標にして、その1次試験及び2次試験の対策を行う授業である。また、その授業で講義する内容は、建築やインテリアの業界で必要となることでもあるので、実務で役に立つことも念頭に置いている。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第2回 第3回～ 第4回 第5回～ 第8回 第9回～ 第12回 第13回～ 第14回 第15回～ 第17回 第18回～ 第19回 第20回～ 第21回 第22回 第23回 第24回	1. 1次試験対策(学科)	① 住宅と社会 ② インテリア販売 ③ インテリアの歴史 ④ インテリア計画 ⑤ 色彩と造形 ⑥ 家具 ⑦ ウインドウトリートメント ⑧ 各種エレメント ⑨ 1次試験模擬試験1 ⑩ 1次試験模擬試験2 ⑪ 1次試験模擬試験3
第25回～ 第26回 第27回～ 第28回 第29回～ 第30回 第31回～ 第32回 第33回～ 第34回	2. 2次試験対策 ・プランニング試験対策	① プランニング過去問題演習1 ② プランニング過去問題演習2 ③ プランニング過去問題演習3 ④ プランニング過去問題演習4 ⑤ プランニング過去問題演習5

※・1単位時間45分（90分授業） ・前期23週、後期19週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	インテリア工学科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(68時間)	開講・履修期	2021年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	安田 泰三（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	自由なテーマを設定し、リサーチからプレゼンテーションまでの実務に即したフローに基づき計画を進める。テーマに関する情報収集・企画構想、プログラムに対するプランニング、デザインにおける想像力、造形力、プレゼンテーション能力を養う。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外活動も行う。また、作品は全てグループワークによるものであり、テーマ・コンセプトを具体的な空間にまでつくり上げることは、在学中に学んだ多くの他の授業の集大成である。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第4回	1. テーマ設定	テーマに合わせた敷地の選定 ■テーマレポート提出
第5回～ 第9回	2. 調査・条件分析 方向性の検討	①テーマに関する資料収集、計画敷地、役所調査、現地調査 ②計画敷地模型作成 ■企画発表会・企画書提出
第10回～ 第19回	3. エスキース	①配置計画（方位・隣地・接道・外構・建築ボリュームの検討） ②平面計画（ゾーニング・動線・採光・通風・プライバシー・床面積の検討） ③立・断面計画（階高・外装・サイン・法規制の検討） ④インテリア計画（内装・ファニチュアプランの検討） ■エスキース（図面・模型）提出
第20回～ 第29回	4. 視覚化	①図面・模型製作開始 ②設計主旨・建築概要 ③各階平面図、立・断面図 ④内観・外観パース（模型写真）
第30回～ 第34回	5. 提出・ プレゼンテーション	■最終成果物提出 ■発表

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週